

平成27年度研究成果報告書《平成26年度指定教育課程研究指定校事業》

都道府県・ 指定都市番号	2 9	都道府県・ 指定都市名	奈良県	研究課題番号・校種名	2 高等学校
				教科名	総合的な学習の時間
研究課題	新学習指導要領の実施を踏まえた教育課程の編成、指導方法等の工夫改善を中心とする生徒の学習意欲を向上させる授業づくりに関する実践研究 協同的に学び合うことで、探究のプロセス（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）の充実を実現する指導計画及び指導方法等の研究				
学校名（児童・生徒数）	奈良県立登美ヶ丘高等学校（717人）				
所在地（電話番号）	〒631-0008 奈良市二名町1944番地12 TEL (0742) 46 - 0017				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.nps.ed.jp/tomigaoka-hs/				
研究のキーワード	郷土学習 ・ コミュニケーション力の育成 ・ 思考ツールの活用				
研究成果のポイント	○郷土学習 ・ 郷土の伝統、文化等に対する興味・関心の深化 ・ 伝統と文化を尊重する心や郷土を愛する態度の涵養 ・ 自立した社会人としての生きる力の育成 ○コミュニケーション力の育成 ・ TPOに応じた意思疎通を図る態度の育成 ○思考ツールの活用 ・ 探究活動や協同的な学習活動の各場面における思考ツールの効果的活用 ・ 教科学習における思考ツールの積極的活用				

1 研究主題等

(1) 研究主題

郷土学習をとおして、探究する力とコミュニケーション力を培う
 ～幅広い知識の習得から汎用的能力を育成する学びへ～

(2) 研究主題設定の理由

- 生徒の身近に存在する郷土を題材にした探究的な学びをとおして、新たな未来を築いていく汎用的能力を高め、新しい大学教育の質的転換に対応し、生涯学び続け、主体的に考えることのできる生徒を育成する「総合的な学習の時間」のカリキュラム編成に取り組むことを目指す。
- 「総合的な学習の時間」の各単元の指導において改善することができた探究活動や協同的な学習活動をとおし、アクティブラーニングの工夫・改善及び授業力の向上を目指す。

(3) 研究体制

- 「総合的な学習の時間」を所管する教務部主任が研究計画の立案、学年主任が実施・運営の責任者、学年の「総合的な学習の時間」係（各3名）が運営の中心をそれぞれ担う。
- 本校では「総合的な学習の時間」を全教員で担当しており、全教員が本事業の研究に参画する。

(4) 2年間の主な取組

平成26年度	<p>4月 ・研究計画の立案・検討 *「総合的な学習の時間」検討委員会</p> <p>6月 ・大学教員による課題別研究会（テーマ設定及びフィールドワークに関する助言）</p> <p>10月 ・大学教員による課題別研究会（課題全般に関する指導助言）</p> <p>12月 ・田村調査官来校（研究協議）</p> <p>1月 ・岡山県立真庭高等学校落合校地「TR発表会」視察 *「総合的な学習の時間」の取組と思考ツール活用法の研修</p> <p>2月 ・課題研究発表会 指導主事及び他県から2校3名参加（指導助言）</p> <p>3月 ・全体研究会 *探究的な学習活動及び協同的な学習活動に関する研修会 *研究体制の見直し</p>
平成27年度	<p>4月 ・研究計画の確認及び共通理解 *新着任者オリエンテーション *「総合的な学習の時間」検討委員会（学習内容及び方法の共通理解） ・大学教員による課題別研究会（テーマ設定に関する助言）</p> <p>6月 ・フィールドワーク研修会 *大学教員による課題別研究会（フィールドワークに関する助言） *1年向け調べ学習ガイダンス（ポスターセッションの内容充実のため）</p> <p>7月 ・「総合的な学習の時間」検討委員会（学習内容及び方法の共通理解） ・「総合的な学習の時間」の授業評価</p> <p>9月 ・課題研究中間発表会及びポスターセッション：文化祭第1日目 ・全校公開授業 田村視学官来校（授業参観及び研究協議）</p> <p>11月 ・大学教員による課題別研究会（課題全般に関する指導助言）</p> <p>12月～2月 ・研究のまとめ *「総合的な学習の時間」の授業評価 *「総合的な学習の時間」検討委員会（学習内容及び方法の共通理解） *研究成果報告書の作成 *課題研究発表会 *「総合的な学習の時間」の見直し</p>

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

○ 郷土学習

奈良県の全公立高等学校が取り組む郷土学習「奈良TIME」を「総合的な学習の時間」の中で実施し、郷土に対する興味や関心を深めることを目指して、学年に応じた協同的な学習単元を計画する。

○ コミュニケーション力の育成

TPOに応じた意思疎通を図る態度や他者の発言に耳を傾ける傾聴力を育成する。

○ 思考ツールの活用

考えや意見を整理・分析・発表する力を高めるために、思考ツールを全校体制で活用する。

(2) 具体的な研究活動

○ 郷土学習

第一学年では広く浅く『一般教養』を学ぶように、第二学年では専門研究を『ゼミ』で行うように狭く深く学ぶような単元配列とした。その際、第一学年においては郷土に関する基礎的な知識だけでなく、協同的な学習や探究活動の基本を身に付け、第二学年ではそれらを応用・活用するグループ課題研究を行わせる中で、探究のプロセスを深めることを目指した。

○ コミュニケーション力の育成

朝 15 分間のチャレンジ・タイムを活用し、1 学期には個人の、2 学期にはグループによるプレゼンテーションを行わせた。また、9月の文化祭1日目は第1学年のポスターセッションと併せて、第2学年の課題研究中間発表会を実施した。これらの活動をとおして、プレゼンテーション力だけでなく、他者の発言に真摯に耳を傾ける傾聴力が身に付くよう、相互評価シートによる評価に取り組みさせた。

○ 思考ツールの活用

「総合的な学習の時間」だけでなく、各教科の授業においても思考ツールを活用することを目指し、全教員の共有財産となるように「思考ツール活用ファイル」を作成した。また、HR活動等における協同的な学習活動では、積極的に思考ツールを活用するよう、学年団を中心に指導を行った。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

○ 郷土学習

第一学年においては郷土に関する基礎的な知識だけでなく、協同的な学習や探究活動の基本を身に付けさせた。具体的には、第一学期に奈良に関する壁新聞のグループ制作活動をとおして、郷土に係わる基礎知識及び協同的な学び方の基本を身に付けさせ、夏期休業中に各グループがフィールドワークによって調べた補完内容により、9月の文化祭第一日目にポスターセッションを実施した。この段階までを、探究のプロセスを体験する一巡目とした。第二学期及び三学期では、分野別郷土学習【奈良の「自然・環境」「文化遺産」「産業】や国際理解学習において二巡目の探究プロセスと第二学年に実施する課題研究のテーマ設定（三巡目の探究プロセス開始）を行った。

第二学年では、グループによる課題研究に一年間取り組む過程で、より深い協同的な学びや探究活動が繰り返し行われるように指導した。また、9月の中間発表会や2月の課題研究発表会を「まとめ・表現」の一つの区切りとした。

このように、身近な郷土を題材とした学習を学年進行によって繰り返すことにより、協同的に学び合うことや探究のプロセス（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）の充実を図ることができた。

○ コミュニケーション力の育成

他者と協同的に学習を行うために不可欠なコミュニケーション力を養うために、以下の取組を実施した。一つは、朝 15 分間のチャレンジ・タイムでのプレゼンテーションの実施であり、生徒自らが語るテーマを設定し、情報を集め、整理した課題内容を発表するように指導した。また、生徒が相互に評価する評価シートを事前に配付することにより、付きたい力の共通理解に努めた。さらに、第2学期に実施した中間発表会（第二学年）とポスターセッション（第一学年）では、他学年

の発表を視聴することや積極的に質疑応答をすることをとおして、コミュニケーション力の育成に努めた。最後に、本校の第一・二学年では「語彙・読解力検定」の受検を積極的に勧めており、90%台後半の受検率となっている。言うまでもなく、基本的な語彙や書かれたものを読み解く力はコミュニケーションには欠かせない。三年前から実施している本検定受検の三級合格率が、【67.6%→71.3%→89.9%】（全国の高校生平均合格率：67.9%）に推移していることから明らかなように、生徒の学習意欲や語彙・読解力が向上したものとする。

○ 思考ツールの活用

協同的な学び合いや探究的な学習を行わせる際、ファシリテータとしての教員の役割が極めて重要であり、共通する「ツール」の必要性を強く感じた。この「ツール」を使い、考えや意見を整理・分析・発表する力を高めるために、全校体制で「ツール」を活用することを決めた。「総合的な学習の時間」だけでなく、各教科においても「ツール」を利用した授業を展開し、思考ツール活用ファイルとしてまとめ、教員の共有財産となるように第二学期に取り組んだ。また、本県で11月に開催された「総合的な学習の時間」研修会においても、指導主事とともに思考ツールを活用することによる効果について述べた。

「総合的な学習の時間」アンケートより

- ・自分で疑問に思ったことや興味を持ったことについて自分で調べ、それを他の人に伝えることができた。これからも疑問や興味を持ったことは、自分で調べて他の人と話し合いたい。
- ・調べたことから出てくる疑問をまた調べることで、より深い学習ができた。

（2）課題

○ 郷土学習

第一学年では学級間の、第二学年では課題テーマ間の学習濃度の差を埋める方策が必要である。田村視学官から研究協議会でいただいた指導・助言にもあるように、生徒が輝いて学習に取り組んでいる空間を作り出すため、教員の力量やスキルアップが第一に求められる。校内研修会の在り方（内容や体制、規模や頻度など）を再考する必要性を強く感じている。今後の最重要課題としたい。

○ コミュニケーション力の育成

「プレゼンテーションに偏りがちである」という教員からの意見にもあるように、口頭発表に重きを置きすぎたため、レポート等にも書きまとめ・表現する力が不足している。今後は、口頭による発表と文章によって表現・発表する機会とのバランスに留意した計画へと改めたい。

○ 思考ツールの活用

第一に、思考ツールの有効性が教員間において十分に共通理解されていない。その結果、教員によって思考ツールを用いた授業の導入度に大きな差が生じており、生徒が身に付けた「ツール」にも差を生んでいる。考えや意見を整理・分析・発表する力を高めるためにツールが果たす有効性を理解するため、校内での研修会や積極的な情報交換を促進したい。

- ・「主体的に課題に取り組み、家庭における調べ学習が増えたか」という質問項目の回答結果は、指定研究を始める以前から変化がなく、主体的な学習へと導く方策を探る必要がある。

（3）指定期間終了後の取組

郷土学習に協同的な学習や探究活動を取り入れることは、極めて有効だと考える。各地域が抱える課題の解決方法を真剣に考える生徒の姿を励みに、これからも地域や他校種とのより一層の連携や校内研修組織の充実を目指した取組を継続したい。